

げいぎ モダン
芸妓が近代
かがい
新潟花街文化研究

新潟市美術館

2023年1月18日～2024年1月21日

花街^{かがい}は、日本舞踊や純邦楽、茶道、和食、書画骨董、日本庭園、和風建築等の有形無形の様々な日本文化を包括的に継承する稀有な場であり、「最後の純和風空間」とも評されます。なかでも、新潟市中央区にある「古町花街^{ふるまち}」は、全国でも比較的規模の大きい現役の花街であり、歴史的町並みが残る伝統的料亭街としては全国随一とされます。

新潟はかつて湊^{みなと}を中心に栄えた湊町であり、その歴史は江戸時代より以前の中世にまでさかのぼると伝わります。特に江戸末期から明治期にかけて、新潟は北前船で大いに栄え、明治中期には人口が全国一位になった年もありました。また、函館・横浜・神戸・長崎と並び、外国文化の受け入れ口としていち早く開港した五港のひとつでもあります。そんな湊町新潟において、訪れる人々をもてなしていたのが古町芸妓^{げいぎ}たちでした。

古町花街の起源は江戸時代中期、今の古町通3・4番町を核として存在した数軒の遊女屋群「中道^{なかみち}」と伝わります。江戸後期から明治中期にかけては、現在の古町通8・9番町界隈に芸・娼妓混在の花街がありましたが、明治中期の度重なる大火を機に、娼妓の営業地域を一つの遊廓に統合する計画が進められました。その結果、明治31年(1898)には郊外に「娼妓の遊廓」が形成され、古町地区の東西の新道を中心に「芸妓の花街」が形成されました。最盛期である大正期から昭和初期には、300名以上の芸妓が活躍していました。つまり芸妓と花街は、伝統文化を今に伝える役割を担いつつも、明治以降に芸妓が娼妓から分けられ、その活動エリアが新たに形成された、近代の所産でもあるのです。

本展では、実際に古町の芸妓や料亭関係者により使われてきた三味線等の道具、主に大正期から昭和期の芸妓を撮影した様々な絵葉書、古町の人形店で昭和後期に制作された芸妓や遊女の人形、古町花街の歴史を今に伝える資料を展示いたします。

本展を通して、往時の古町花街のおもかげに触れ、古町に今も継承される花街文化の魅力をより身近に感じていただければ幸いです。

久保 有朋

旧齋藤家別邸学芸員、
古町花街の会事務局長、
博士(学術)

〔出品目録〕

1. 古町芸妓の三味線

かつて古町芸妓が用いたもの。今も昔も、芸妓には特に大切な商売道具。

2-1. 古町芸妓の三味線箱

総桐の三味線箱。湿度の変化に弱い三味線の保管に、桐は最適。

2-2. 古町芸妓の三味線箱

移動時に用いられたトランク型。昭和の芸妓「勝丸」が愛用。

3. 料亭の屋号木札

古町の各料亭の屋号が記された木札。料理業組合の集いで用いられた。

4. 三業会館の箱火鉢

三業会館は古町花街の拠点施設。「三業」とは、花街に関わる三つの業種、芸者置屋・待合・料理屋を指す。新潟市中央区西掘前通9番町に1964年竣工。2018年、古町通9番町の現在地（旧待合「美や古」）に移転。

5-1,2. 芸妓人形

東京の花街の芸妓をかたどったものと思われる。戦後、古町通3番町の人形店で制作された。

6. 花魁人形

江戸吉原の花魁をイメージした戦後の人形。ちなみに、新潟には江戸吉原のように遊女たちを「花魁」「太夫」と格付けする風習はなかったが、遊郭は明治初期まで存在した。

7-1. 絵葉書『新潟名所』昭和18年(1943) [3枚]

「西堀の柳と橋と美人」「日和山公園」の2枚に古町芸妓の姿が見える。

7-2. 絵葉書『新潟美人』昭和4年(1929) [12枚]

新潟市内の大動脈「萬代橋」（現在の橋は三代目、国指定重要文化財）の竣工記念はがき。当時の若手古町芸妓から12名が選出され、1枚につき1名ずつ掲載されている。

7-3. 絵葉書「古町芸妓の踊り」大正7年(1918)～昭和19年(1944) [4枚]

料亭の床の間を背景に、古町芸妓が踊りを披露する。新潟の絵葉書に多い図様。

7-4. 絵葉書「情緒の都新潟を訪ねて」昭和中期 [8枚]

舞台上踊りを披露する古町芸妓。

7-5. 絵葉書「堀と柳と古町芸妓」大正7年(1918)～昭和19年(1944) [7枚]

当時、新潟の中心街・古町界限には堀がはりめぐらされ、堀端には柳が並んでいた。柳と堀は、湊町・新潟の象徴的な風景。古町芸妓が柳の下を歩く姿は、新潟の絵葉書の定番であった。

7-6. 絵葉書「新潟市鍋茶屋」大正7年(1918)～昭和7年(1932) [2枚]

料亭「鍋茶屋」（新潟市中央区東堀通8番町）は弘化3年（1846）創業。鍋茶屋の塀が板塀であった当時の姿。昭和12年（1937）、この塀は石積みの腰壁にRC造の壁面が載る現在の形に改修、主屋が増築された。

7-7. 絵葉書「白山公園と古町芸妓」昭和8年(1933)～昭和19年(1944) [2枚]

白山公園前の堀端や公園で芸妓を撮影した写真。

7-8. 絵葉書「新潟海浜の古町芸妓」大正7年(1918)～昭和7年(1932) [1枚]

新潟の海辺を散策する古町芸妓。

8. 古写真「東新道と料亭」 [4枚]

昭和戦前期の撮影と思われる。東堀通9番町の老舗料亭「やひこ」に伝わるもの。

9. 古写真「三業会館屋上より」1965年 [10枚]

料亭関係者により撮影された古町花街のパノラマ写真。

10-1. 寺門静軒『新潟富史』安政6年（1859）、新潟市歴史博物館蔵

江戸の儒学者・寺門静軒（1796～1868）は、天保年間（1830～40年代）に『江戸繁盛記』が禁書となり、奉公禁止の処分を受ける。以後は諸国を放浪、幕末新潟への来遊を通じて執筆された本書は、『江戸繁盛記』の姉妹編と言える。

10-2. 『新潟富史』新潟市・高橋新吉発行、明治22年（1889）

10-3. 『新潟富史』訓読解説・新稲法子、太平書屋、2004年

明治と平成の『新潟富史』翻刻。2004年版は注釈・現代語訳を付す。

11. 『越後土産初編』元治元年（1864）、新潟市歴史博物館蔵

幕末新潟のガイドブック。老舗料亭「行形亭」「鍋茶屋」の記事もある。

12. 『新潟案内』大正6年(1917)

特産品博覧会・大日本山林大会・新潟築港起工式の機会に刊行。料理屋・待合・遊廓等を詳しく紹介する「遊興の栞」を含む。

13. 山川健『新潟便覧』北光社書店、大正6年(1917)

盛んに発達していた古町花街の料理屋や待合のガイドを含む。古町芸妓の顔写真多数。

14. 長谷川雪旦『北国一覽出羽越後』大正13年(1914) 原本：天保2年(1831)頃

『江戸名所図会』で名高い絵師・長谷川雪旦(1778~1843)が新潟来遊の折に描いた。当時の新潟を知る第一級資料。この復刻は東京・米山堂が300冊刊行。原本は所在不明。

15. 『全国花街めぐり』昭和4年(1929)

全国180カ所の花街を紹介した花街史の好資料。それらの位置や歴史、待合・置屋・芸妓などの概数を伝える。

16. 風流山人編『舟江の華』発行者・佐藤寅作、昭和4年(1929)、昭和10年(1930)

古町芸妓を顔写真とともに紹介。多くの料理屋と待合の所在一覽も貴重。

17. 内藤紵策『新潟の印象』新潟市協賛会、昭和5年(1930)

新潟の民謡多数を収録。河東碧梧桐の来遊記、与謝野晶子・北原白秋・西條八十らの短歌も掲載。

18. 『舟江をどり』パンフレット、昭和10年(1935)、新潟市歴史博物館蔵

当時の古町芸妓総勢220名による日本舞踊公演。この1回のみ開催。1985年に上越新幹線の上野駅乗り入れを記念し、第1回「ふるまち新潟をどり」として復活。現在も新潟市民芸術文化会館(りゅーとぴあ)で毎年開催。

19. 富山清一郎『古八西新道開通記』私家版、昭和11年(1936)

古町通8番町に平行する「西新道」は、今も料亭や置屋が並ぶ石畳の小路。その街並み形成に関する詳細な記録として、本書は唯一のもの。

20. 『全国芸妓置屋組合名簿』1956年、1965年、1971年

新潟県内には全国でも特に多くの花街があったことを伝える資料。

21. 『新潟花街』1960年版、1962年版、新潟市観光協会

新潟三業協同組合に加盟する料理屋と待合の一覽、新潟芸妓置屋組合に加盟する古町芸妓全員の顔写真・趣味(映画、読書、ゴルフ等)・特技(三味線、踊り等)を紹介。著名な作家や歌人の寄稿もある。

22. 『ふるまち』1966年版、1970年版、新潟三業協同組合

古町花街を紹介する小冊子。当時、新潟三業協同組合に加盟していた全ての料理屋と待合が、建物外観写真付きで掲載されている貴重な資料。新潟芸妓置屋組合の古町芸妓も全員が顔写真付き。小説家・檀一雄の寄稿もある。

23. 『第28回市山研踊会公演』パンフレット、新潟宝塚劇場、1963年

五代目・市山七十郎（1889～1968）の芸道60周年記念公演。市山流は大阪で創始、幕末に三代目が新潟に拠点を移し、四代目以降は女性が継承。当代家元（七代目）や、市山流一門の古町芸妓の写真など

24. 『邦楽・舞踊鑑賞会』パンフレット、イタリア軒、昭和20～30年代

日本最古の洋食店として知られる新潟市のイタリア軒ホールで開催。昭和51年（1976）にイタリア軒はホテルに改装されて現在に至る。

25. 杵屋弥七編『長唄越後獅子教本』、新潟三業協同組合

古町にあった料亭「福井楼」初代当主が稽古に用いた三味線教本。『越後獅子』は、初代・市山七十郎が振付、古町芸妓との縁が深く、「ふるまち新潟をどり」で度々演じられる。

26. 杵屋弥七編『長唄元禄花見踊教本』新潟宝塚劇場、1963年

古町にあった料亭「福井楼」初代当主の旧蔵。この絢爛豪華な演目は、令和元年「第31回ふるまち新潟をどり」でも演じられた。

27. 『第22回全国芽生会新潟大会』記念品、1975年

全国の料理屋から若主人が集う団体の全国大会の記念品。